

ガンバッテいきます



JA本渡五和「グリーン
トップ本渡」
出荷者
酒井ナオミさん



中原
克義さん
JA熊本市 茄子部会長

酒井さんは、以前五和町農協手野支所に勤めていました。その後結婚とともに退職しました。そして子どもが小学生になってから農業に係る様になり、現在で33年目になります。

●温州ミカンいかがですか
酒井さん宅では、ご主人と一緒にミカンを78a、米22a作っています。

温州ミカンは9月中旬から11月にかけて、極早生、早生、中生(普通の順)に出荷。他にもポンカン、晩柑(ごぼん、清見)、スイートスプリングも少量作っています。「今年は裏年のため、収穫量は少なかったのですが、雨

熊本市飽田地区で、茄子栽培を行っている中原克義さん(64歳)取材しました。

中原さんは、JA熊本市の茄子部会長をはじめ、園芸副部長、営農センター運営委員長、支所運営委員、小組合長に加え、原茄子部専門部長など、多くの役職を兼務されており、地域のリーダーとして活躍されています。

●共販歴40年
この地区で生産される茄子は、肥後の「ごこなす」の色が有ります。もぎたての茄子は、「おでこ」が光っているように見える「ごこなす」から命をされたと言います。中原さんはその茄子70aと米20aを、奥さんと息子さん夫婦、それに嫁の5人で栽培しています。

中原さんは熊鷹高を卒業以来、就農

が少なかったので甘くなりまし

●直売所について
酒井さんは、一昨年の4月から直売所へ出荷し始めました。ミカンの収穫に手伝いに来てくれた親戚の人達から薦められたことがきっかけです。「もっと早くから加入したらよかったです。なあと今では思っています」という酒井さん。直売所では迅速かつ丁寧に対応してもらっています。ミカン用にコンテナを貸してもらっているのだから、まず「ごんご」。

出荷する際に気を付けることは袋詰めです。特に9、10月は暑くミカンが腐敗しやすいので、

して46年になります。就農前から両親が茄子を作っていました。当時収穫した茄子は田崎市場に出荷していましたが、「セリで価格が決定するため、高かったり安かったりと、出来の良い茄子であっても、価格が一定していなかった」と言います。そこで就農後、販売価格の高低の波が少ないJAに出荷することにしたと言います。その時の生産者番号は、自分の姓「な」から「な」をなぞって「8番にしたそうです。

●ペレットボイラー導入を検討
中原さんは重油を使って加温していますが、多いときには一晩で600

丁寧に選別して袋詰めします。「今年は特に美味しいミカンができ、毎日完売していたので1日1回は必ず補充に行きました」とのことでした。またミカン等柑橘類のほかにも、切り干し大根、小豆干し、シイタケを出荷しています。最初は値段を付けることが大変だった、という酒井さん。「今は他の人達の価格を参考にしています。今年はあまり値下げせずに済みました」と話してくれました。

●挨拶で始まる1日
「直売所では朝一番の『おはよう』の挨拶で1日が始まります。皆はうらやまとしていらっしゃるので、私も元気をもらえ

消費すると言います。田安の影響で燃油は高騰、資源には限りもあり、いつまで定量輸入されるか不安視している中原さんは、木質ペレットボイラーの導入を検討しています。「ペレットの供給は十分できるのか。専用ボイラーの価格は高い割には、熱効率も重油より低いなどの課題はある。しかし今後のことを考えると、燃費が3割ほど安いペレットを、重油と併用する形で使用したいと考えています。

●耐油性ハウスで万一の備え
中原さんは70aの加温ハウスの内、40aが耐油性ハウスです。10a当たり12000~13000万円(国から約半分の補助あり)もするそうですが、「将来的には1haに規模拡大し、すべて耐油性ハウスにしたい」と言います。

ます」と酒井さんは話します。直売所に出荷する様になってからは、毎日の生活にメリハリがつき、また人に対する思いやり、品物についての考え方が以前と変わったそうです。酒井さんは「新鮮でおいしく安全なものを消費者の方へお届けしたいと思っています」と話しました。

●今後の抱負
酒井さんは「農業は天候に左右されますが、植物は手を入れると必ず恩を返してくれます。暑い日のかん水、摘果、防除、除草など大変ですが自分の健康に十分注意しながら、美味しいミカンづくりに励みます」と話してくれました。

茄子部会員162名で71haを栽培していますが、半分は耐油性ハウスだそうです。「ビニールハウスだけなら、万一台風が直撃すれば収入は断たれてしまう。建設費は高つくが、保障の意味でも半分は耐油性にする必要がある」と中原さんは言います。また、部会員には「40歳以下の後継者が約70~80名おり、Uターン者も結構いる。後継者がいるからこそ、このハウス建設に踏み切れる」と語りました。

●好きな言葉
和
「部会はエコファーマーの認定を受け、安全安心な茄子を生産している。その組織を維持するためには、会員のチームワークや団結が必要であり、全体の「和」が欠かせない」